

健康診断受診者の10年後の追跡調査 ～血圧管理状況の変化とその要因～

まきの ゆみこ¹⁾ おむら えみこ¹⁾ わだ かずみ¹⁾
牧野 由美子¹⁾ 小村 恵美子¹⁾ 和田 和美¹⁾
おおしろ ひとし²⁾ なごし きわむ³⁾
大城 等²⁾ 名越 究³⁾

キーワード：血圧管理状況，10年後の追跡調査，非高血圧域，肥満，飲酒量

要 旨

2012年度と10年後の2022年度の両方を受診した者の追跡調査を行い，血圧管理状況の変化とその要因を検討した。その結果，女性に比べ男性の血圧管理を厳格に行う必要性があること，また，治療に至っていない「高血圧域」の者の指導が重要であることが明らかとなった。「非高血圧域」だった者が10年後に「治療中」となった要因の分析から，肥満および男性の1合以上の毎日の飲酒が関連していることが明らかとなった。問診の嗜好調査「塩辛いものが好き」，および毎日1本以上の喫煙との関連は明らかにならなかった。今回の結果を，今後の保健指導に生かしていく。

【目 的】

当センターの機能として，健康診断を通じた脳血管疾患等循環器疾患の予防，特に血圧の適正管理は重要な役割の一つである。この間，健診時の生活習慣改善指導，特定保健指導の導入など，健康診断から生活習慣改善に繋ぐ取り組みを進めてきた。

今回は，2012年度を受診者について10年後の追

跡調査を行い，個々人の血圧の変化を明らかにするとともに，当初，非高血圧域だったにもかかわらず10年後に血圧治療を開始している者の要因を分析して今後の指導に役立てることを目的とする。

【対 象】

2012年度（以下12年度）に健康診断を受診した者のうち，30～60歳代の者で，10年後の2022年度（以下22年度）も受診している者2,941人（男性1,844人，女性1,097人）を対象とした（表1）。

【方 法】

（1）受診者全体の血圧管理状況について12年度と22年度の比較を，男女別に血圧管理状況3区分

Yumiko MAKINO et al.

1) 公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根

2) 合同会社 DATA MILL

3) 島根大学医学部環境保健医学講座

連絡先：〒693-0021 出雲市塩冶町223-1

公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根